

「恵方参り」知ってますか？

先月号での風物詩の記事で、恵方巻きのことが記されていましたが、そのことに関する小話をひとつ。

皆さん「恵方参り」ってご存じですか？その年の福徳を司る神様がいらっしゃる、縁起の良い方向（恵方）にある神社やお寺に、その年の幸福や開運をお祈りする伝統行事です。恵方は毎年変わり、自宅から恵方にある社寺に詣でることで、運氣が上昇するといわれています。2026年は南南東が恵方といわれています。参拝時期としては、節分の2月3日、または立春の2月4日、旧正月（2月17日）頃が一般的です。1年を通して恵方参りは可能で、季節の節目（春分・夏至・秋分・冬至など）もおすすめです。自宅から恵方（南南東）の延長線上にある神社仏閣で、特に自宅から750m以上離れた場所にある神社だとより縁起が良いという説もあります。早速、日々の感謝の気持ちを伝えるに行ってみるのはいかがでしょうか。節分では恵方を見つめながら、ひたすら恵方巻きをほおぼったりしたのでしょうか…。皆さんの運氣があがることを願っています。



クラスの「押し本」！

「現代の国語」の授業の「本の紹介」という単元で、一人一冊、本の紹介をしました。プレゼンの結果、「最も読みたくなった本」は以下の通りです。



- 1-1 1位『ハニータッカーと命の水晶』 2位『とんかつ屋のたまちゃん』 3位『チーズはどこへ消えた』
- 1-2 1位『I』 2位『1兆ドルコーチ』 3位『オルタネート』
- 1-3 1位『株と証券』 2位『人間標本』、『アリス殺し』 3位『ところで愛ってなんですか？』
- 1-4 1位『電人M』 2位『わたしを離さないで』 3位『成瀬は信じた道をいく』

※ノーベル文学賞受賞作家から、文豪作（『夫婦善哉』、『河童』など）、短歌集、江戸河乱歩…さまざま人それぞれのおすすめはとても面白いものでした。またクラスのカラーが出ていると思いませんか？上記の本は図書館にありますので興味のある方は司書室まで。（文責 今）



先月、第174回(2025年下半年)の芥川賞・直木賞の受賞作が発表されました。新たな才能にあふれた作品を紹介します！



芥川賞



時の家/鳥山まこと/講談社
青年は描く。その家の床を、柱を、天井を、タイルを、壁を、そこに刻まれた記憶を。目を凝らせば無数の細部が浮かび、手をかざせば塗り重ねられた厚みが胸を突く。幾層にも重なる存在の名残りを愛おむように編み上げた、新鋭による飛躍作。



芥川賞



叫び/畠山丑雄/新潮社
聞いて欲しい人が一人おるんです。「政と聖」(まつりごと)を描く芥川賞候補作。早野ひかるは「先生」に打ちのめされ、銅鐸と土地の来歴を学び始める。ここではかつて罌粟栽培と阿片製造が盛んで、満州に渡って「陛下への花束」を編み、紀元2600年記念万博を楽しみにしていた青年がいた。いつしか昭和と令和はつながり、封印されていた声が溢れ出す。大阪と大陸で響き合う夢とロマン、恋愛政治小説。

直木賞



カフェーの帰り道/嶋津輝/東京創元社
東京・上野の片隅にある、あまり流行っていない「カフェー西行」。食堂や喫茶も兼ねた近隣住民の憩いの場には、客をもてなす個性豊かな女給がいた。竹下夢二風の化粧で注目を集めるタイ子、小説修業が上手いかず焦るセイ、嘘つきだが面倒見のいい美登里を、大胆な嘘で驚かせる年上の新米・園子。彼女たちは「西行」で朗らかに働き、それぞれの道を見つけて去って行ったが…。大正から昭和にかけ、女給として働いた“百年前のわたしたちの物語”。



1月末クラス別利用状況



クラス 学年	1組	2組	3組	4組	職員	計	総計
1年	3	0	0	4		7	15
2年	2	0	0	0		2	
3年	0	0	0	0		0	
職員					6	6	